

平成30年度 第1回 青少年問題協議会定例会 会議録（発言要旨）

- 開催日時：平成30年11月27日（火）10:00～12:00
- 開催場所：西宮市勤労会館 第2会議室
- 出席委員：安東会長、本田副会長、田中委員、内田委員、根岸委員、松村委員
林委員、岩原委員、宮本委員、松岡委員、中村教頭（野川委員代理）、椋野委員
- 事務局：佐竹こども支援局長、
川俣子供支援総括室長、
上田社会教育部長、
（青少年施策推進課・青少年育成課）牧山課長、町田係長
（消費生活センター）高橋所長
（子育て総合センター）海部所長
（校務改善課）常念係長
（社会教育課）中島課長
（人権教育推進課）野田課長
（学校教育課）木田係長
（学校保健安全課）飯干課長
（教育研修課）乾課長

1. 開会
2. 委員・事務局・関係課職員紹介委員・事務局紹介
3. 報告事項1. 中高生の居場所づくりの進捗状況について
・資料説明、報告（事務局）

資料1 中学生アンケートの結果について、資料2 西宮市の自習室一覧を参照。

現在、市の施策として、中高生の居場所となる施設の設置に向けて具体的に動くところまで至っていない。中学生アンケートの結果によると、高校生では全体の73%、中学生でも全体の74%が自習室を利用したいと回答しており、自習室へのニーズは確認できている。まずは、自習室があることを表示するステッカーを作成し施設の入り口に掲示したり、市内にある12の自習室をリストにまとめ、ホームページで紹介したりするなどして、すでにある自習室への周知を図っていく。

今後は、公民館などの公共施設において、自習ができる場所の拡充ができるかどうかについても、検討していく。

・勉強だけでなく、勤労青少年ホームにある音楽の施設、また美術に関する施設など様々な広がりのある施設の情報をもっと、ホームページ等でオープンにしていきたい。（委員）

→自習室に加え子供達が望む活動に対応する施設のリスト作成については、検討する。

・学習室だけでなく、自由に無料で使える共同利用施設（センター）を広報すれば、もっと有効活用できるのではないか。（委員）

・中高生の居場所となる施設を作る計画は立ち消えになったのか。もしくは、継続して検討していくのか。（委員）

→具体的な場所や時期は未定であるが、立ち消えというよりは、ニーズも含め、どのような施設が市にとって必要なのか検討が必要と考えている段階である。（事務局）

4. 報告事項 2. 青少年表彰の選考委員及び選考結果について

・資料説明、報告（事務局）

資料 3 を参照。選考委員に校舎長会 松岡委員と子ども会協議会の田中委員に依頼。

今年は個人 6 名、団体 8 組が推薦され、10 月 15 日の選考委員会では、松岡委員、田中委員に出席いただいた。協議の結果、すべての個人、団体が承認された。

表彰式：12 月 22 日土曜日、市役所東館大ホールにて午前 10 時より開催する。

5. 協議 提言に係る施策への反映状況について

携帯電話やインターネットに関する問題について（H26. 3. 17 提言）

・資料説明、協議内容（事務局）

資料 4、資料 5、資料 6 を参照。資料 5 を元に協議いただく。

（1）家庭での取り組み

青少年育成課で作成し、市内公立小学校 4 年生全員に配布していた「インターネット・ケータイガイド」に代わり、平成 31 年度はベネッセこども基金より無償提供いただく「初めてのスマホ 安心ガイドブック」の配布を検討している。

・「インターネット・ケータイガイド」をやめて、「初めてのスマホ 安心ガイドブック」にするのか。両方とも配布するのか。（委員）

→「インターネット・ケータイガイド」は当課が自前で作成しているが、手入れが大変である。「初めてのスマホ 安心ガイドブック」は専門家（京都府警と兵庫県立大学 竹内教授）が作成している。後者の方が見やすいという意見が多ければ、こちらに変えたいと思う。（事務局）

・新しいアプリがどんどん出てきているので、冊子を配布するだけでなく、専門の講師の方に来ていただいて直接子供達に一つ一つ危険性について教えてもらうのも効果的ではないか。（委員）

・本校（高校）でも毎年、業者の方に講習してもらっているが、生徒たちはすでに中学校で

色々な啓発をしてもらっているのですが、初めて聞く情報は少ないように感じる。情報モラル、マナーを今一度気を付けようという側面が強いと感じる。毎日ものすごいスピードで進化しているので、個々のアプリに潜む危険性をいうレベルになると、専門家に指導してもらわないと難しいように感じる。(委員)

・子供の吸収が速く、大人の方がついていけない。親もみんなが使っているからとLINEを安全なものと思いがちで、よく分からずタイムラインにフェイスブックのように情報を載せたが、個人情報が入っていてすぐ消すよう伝えたなど、親の方にもトラブルがある。親子の講演会や勉強会があれば、お互い教えあっていると思う。(委員)

・子育てサロンでの母親がスマホをしている時間が長い。子供が遊んでいる間ずっとスマホをしている。親子のコミュニケーションについて見直しが必要と感じる。

社会教育課が実施している入学説明会での出張講座はどのような内容なのか。(委員)
→西宮サポートセンター所長が、14歳になったら少年法により逮捕されるなどの危険性もあるということ話をした。改めて子供と話しをしようと思うと保護者のアンケートに記載されていた。20校中、9校で実施した。(社会教育課長)

・青少年施策推進課でも全10カ所にて開催予定となっているが、説明してほしい。(委員)
→学校のPTA、青少年愛護協議会などが専門家等インターネットの問題に関する研修を行うときに上限3万円まで講師代を補助する事業である。平成29年度は7地区21万円の予算であったが、30年度は10地区30万円の予算で実施している。兵庫県でも同じような事業を実施しているので、市の予算で足りない場合は県の事業を紹介している。今後も研修を広めていきたいと考えている。(青少年施策推進課長)

→幼稚園が多い。園長からの要望で、送迎している保護者がスマホをしながら来たり、就園していない兄弟にずっとスマホをさせたりしているので、それを危惧し申請されるケースが多い。(青少年施策推進課長)

・冊子を配布する際のお願いとして、一つは一枚ものでいいので、西宮市の子の実態を載せてほしい。二つ目は(子供が親に渡さず)家に届かないことが多いので、「学校だより」を利用してはどうか。つまり、行政がパンフの紹介文の具体例を作成し、「学校だより」に掲載してほしいと依頼すれば、学校も助かるのではないかと思う。
最後のお願いとして、無料配布することによって余った予算はぜひ同じ趣旨で活用してほしい。(委員)

・どういう形で冊子を配布するのか。(委員)

→冊子自体は無料でいただけるので、送料を当課で負担して各学校に配布する予定である。(青少年施策推進課長)

- ・実際トラブルが起きたときの相談先に「インターネット・ケータイガイド」記載のあるような身近な西宮の情報を掲載してほしい。これは保護者にとって重要な情報だと思う。(委員)
- ・その際に、西宮の子どもの実態に関する情報と一緒に掲載してもらえればと思う。(委員)

(2) 学校での取り組み

- ・モデル校として指定している3校はどこの学校か。(委員)

→3校のうち今、小学校が2校、中学校が1校である。具体的には、用海小学校、上甲子園小学校、中学校は真砂中学校である。公開授業は前提として依頼しており、毎年この3校については情報教育の授業公開をしている。(教育研修課長)

- ・実際に外部から色々な方が参加して、研究発表会をしているということか。(委員)

→している。今、プログラミング教育であったり、情報活用能力について、それぞれの学校で取り組んでいるので、モラルに関して特化したような研究ということではないが、今の最新の取り組みをしている。(教育研修課長)

- ・情報活用能力育成カリキュラムを作成し、毎年修正しながら更新しているということ、子供たちにそういった授業をるところを他の先生方が見ているということか。(委員)

→各学校で情報活用能力育成カリキュラムを作っている。何年生でどういうことを目標にして、この時期にこういう内容で情報活用能力の育成に取り組むというようなどの具体的なカリキュラムを作っている。学年ごとに取り組んでおり、講義の中で他の先生方に様子を見てもらっているかまでは、把握はできていない。(教育研修課長)

- ・この提言を書いたときに市としての情報活用能力の育成カリキュラムはないのでと県のカリキュラムを出してこられたことを覚えている。市としても必要ではないかということで、そのときの話し合いの中に出ていた。各校となっているが学校ごとに違うのか。(委員)

→一応モデルというのを示しながら、各学校でどの月にどんな内容でやるかというのを具体的にプログラムしている。(教育研修課長)

→各校で決められている市のカリキュラムに基づいた指導計画ということか。(委員)

→そうである。(教育研修課長)

- ・資料4の23、24ページのような段階ごとの見通しというか、つながりを幼・小・中・高で考えているのか。(委員)

→育成カリキュラムは、小学校、中学校、高校まで作っているもので、そういう繋がりについても、

考慮して作っている。(教育研修課長)

→市として作っているのか。(委員)

→一応、モデルとして市が出しており、それに基づいて各校は作っている。(教育研修課長)

・いつも問題になるのは、研究指定校を指定し、現場はとても忙しいが、どこかで担う学校がいくつああって、こうあるべきだという姿を提示したらどうかと提案したが、当初、難しいとの回答であった。このように指定し、研究していただけていることはとても有難い。とはいえ、やはり還元しないと意味がない。この頃、研究発表会が少なくなっているのではないかと感じる。一時期、全国発表も多く、華やかな時代もあった中で、新聞にも、研究発表会に関する記事を見かけなくなっている。皆が行ってみようかと、たくさんの方が参加するという機運を作り出すのが、行政の役目かと思う。どれくらい参加されたのか。(委員)

→モデル校を指定したときには必ず情報担当者会の中でも具体策については共有するようにしている。(教育研修課長)

→担当者会は、プロで分かっているあたり前である。それを、他分野、例えば国語の教師、音楽の教師が担任として、理解して、保護者と繋がって初めて生きてくる。それを、担当者会だけに終わらせないで、いかに広げるかというところがポイントだと思う。そこをお願いしたいと提言では、言わせていただいた。(委員)

→さきほども言ったが、モデル校に指定するには必ず年に1回、授業、研究発表会をするようにお願いしている。残念ながら、たくさん先生の参加ではないが、必ずその機会を持つようにはしている。(教育研修課長)

・提言内容の、6行目にあるように、「情報担当」教員だけでなく、教員全体への研修ということを書いているので、やはり最低限のそういった知識、情報をどの先生にも知識を持ってもらうことも考えていただきたい。(委員)

・「市内の中学校では、生徒会が中心となってスマートフォンの使い方を振り返る」とあるが、生徒会の子たちは真面目で一生懸命な方が多いのかなと思うので、生徒会ではなく例えば、クラブ単位であるとか、学校、学級の中で、総合の時間とかで、そういうルールを考える時間がある方がいいと思う。子供たちは面白い観点で面白いルールなんかも出てきたりするの、それを学校便りや連携協議会とかで、地域の方とか各団体の方に言ってもらって、且つ、そこからまた、PTA協議会や青愛協など地域の方にも入った団体に、子供たちが考えたルールで「こうだよ」ということが発信できれば、より一層多くの方に見てもらえると思う。中学生は自分たちが考えたルールだと自尊心が上がっていったりすると思う。(委員)

→一般的ところで生徒会が中心というのは、結局、生徒会の役員が決めるというのではなくて、それを各学校で時間を作って、こういうテーマで色んな意見を吸い上げ、最終的には生徒会が取りまとめるというのが大概の形である。そこで最終的な意見が出てくる。おっしゃられたよ

うに中学生が決めたルールを地域や家庭に返すというのもいいと感じた。(学校教育課係長)

- ・部活に入るとLINEができないと部活ができないみたいな話を中、高校生の母親からよく聞く。LINEから講師を招いて先生たちが研修をしたり、生徒会中心に中学生自身も先生たちも問題意識はあると思うが、実際はLINEでの連絡が行われている現状がある。学校へは携帯電話持ち込み禁止であるが、そういったことは、容認せざるを得ない状況なのか。(委員)
- 部活等の連絡にLINEで回すのではなく公にきちんとした連絡網を作っている。ただ、やはり実態として子供たちで回しているところはあるのかも知れない。(学校教育課係長)

- ・娘の友達はスマホを持っているが、クラスのグループラインには入らず、仲の良いグループにしか入っていないようで、使ううちに自分の中で、使い分けをするようになって、なるべくトラブルにならない方法を学んで使っていると思う。(委員)
- 部活でLINEを使用するとどれほど便利かと思う。その日の天気によって試合が中止になった、集合場所が違ったといったときに、瞬時に一定の人数に連絡が取れるという意味では威力を発揮するので、子供たちが非常に便利だと思い、そのおかげで機動的に活動できるのかなという側面あるかと思う。

西宮市を飛び出す話であるが、今、高校の中で一つ、動きとして気になるのが、校内でもスマートフォンの使用を認めようと。学校の中で様々なタブレット、パソコンなどの情報機器を備えて、子供たちに常に触れやすい形にして、操作と併せてモラルを身に付けさせていこうというのが今までのスタイルであるが、これだけ実際に高校生のスマホ所有率が限りなく100%に近くなっていくと、調べ学習では、各自のスマートフォンを出させて、その使用を可とする。そういうふうな方向に、一部の私立の学校であったり、あと東京は、あの、都立高校では、すでにモデル校を指定し、そのように全校に広げていくような動きがあるそうだ。そのための環境整備を考えると、また別の予算であったりとか、本当にモラル教育を全校あげてしていくという大変な課題があるかと思う。確かにこれほど便利なツールなのに、どうしたらいいんだろうというジレンマがある。学校の中でも使用は可とし、そちらの方に踏み切っていく学校も、日本の中には現れだしているという動きは少し気になっている。(委員)

- ・現状はお母さまの方が、こんな便利な武器があるのに、なぜ、いつまでも、昔の紙おむつのようにこだわっているんだというような逆の発想になってしまう。トラブルが起こるのは、個人個人の問題だと割り切っているところが往々に見受けられる。大きな事故を防ぐことができなくて、子育ても叱っちゃいけない、ご近所で泣かせてはいけないので1時間でも2時間でもスマホの動画を見せて子供が泣き止むのを待たせたりするなど、なんとか自分たちで解決しようとは思っているが、どうしていいか分からないから情報がどんどん出てくるスマホに頼るしかないという動きが多々ある。いけない、危ないからこうしなさいという考え方は、通用しないのではと私は思う。(委員)

・(スマホは) 便利であるが、それだけに頼るのではなく、こうやって皆さんと話し合うとか、顔を見てというところが、やっぱり大事だということを子供にも伝えていきたいし、そうなってくると低年齢からのモラルの勉強というのは、大事である。親としては中高生になると介入しづらくなるので、学校と保護者、色んな情報を共有して、講演会を子供達と一緒に聞けたらと思う。(委員)

→保護者との連携の中で、学校だより等を通じて学校で取り組んでいる内容を伝えている。よくあるのが夏休み前に、こういったトラブルがあり、そういったときには、こういったところにお電話くださいと情報提供している学校がある。あるいは、学校、生徒向けの講演会の内容であるとか、そのときに以前決めた生徒会が作ったルールをもう1回そこに挙げて、ご家庭にももう1回共有していくとか、あるいは、生活の実態調査というのをそこで就寝時間とゲームの関係のところだけをピックアップして、そこにSNSの問題も一緒に見つけて情報提供しているといった学校。それから、校長先生が巻頭言みたいな形でよく書かれると思うんですけども、そこでこの問題をどう考えますかというような、そういったことを投げかけられているような学校もあって、学校だよりで色んな工夫をされていた。(学校教育課係長)

・「各小学校では西宮市人権教育共通教材指導系統表の(P2)」と書いてあるが、共通教材っていうものがあるのか。これは、小学校だけか。(委員)

→現在あるのは小学校で、今、中学校の方を、作成をとりかかっているという状況である。(学校教育課係長)

→西宮独自の教材か。(委員)

→西宮独自ではなく、色んな教材が、例えば、虐めの関連の教材、情報管理の教材といった形で、いいものを、あわせたような形で作っている。(学校教育課係長)

→共通ということは、各学校でそれを行うという意味か。(委員)

→必ず使わないといけないことではないが、こういった教材があるので、是非使ってくださいという意味である。(学校教育課係長)

→もう一点。生徒会が中心となってマイルールを考えるという、マイルールを作っている学校って何校ぐらいあるのか。(委員)

→中学は20校あるが把握していない。(学校教育課係長)

(3) 地域での取り組み

・子育て広場に勤務しているが、先ほど、幼稚園での講習会が多いという情報を聞いて驚いている。そういった情報をこの子育て広場にも流してもらえれば、そこでも保護者向けに講習をやっていくのも一つであると思う。各家庭での責任であるとは思いますが、なかなかそこが行き届かない、普段の生活自体が回らない家庭が、やっぱり多いので地域連携は強化していかないとはいけないと思う。こういう情報をキャッチして、子育て広場、サークルにも落としてもらいたい。

(委員)

→ご意見があったように、広場においても、やはりお母さんがずっと携帯を使っていて、子供だけがおもちゃで遊んでいるというような姿も結構、見受けられる。そういったところで、お母さんからの意識を変えていけるような、発信・情報の共有・気づきを持てるような機会の提供ができればと思う。色んなお話をする機会とか研修をしているが、お母さん同士の話し合いの中でも、一つの話し合いのテーマとして検討したいと思う。携帯などのカバー、フォローができていない家庭に対して、地域で見守っていく、地域での子育て広場で意識を持っていただくことも非常に大事である。実際どのように展開していけるかは、自分自身もあんまり強く意識してこなかった部分があるので、今いただいたご意見を研究していきたい。(子育て総合センター所長)

→広場ではわりと保護者同士が話しており、あまりスマホを見ている人はいない。そういう雰囲気できており、スマホで病院とかの情報を得るよりも、生の声を聞く方がネットの情報よりも良いとの意見がある。意外とアプリよりもそういった情報を活用しているので、スタッフにも周知してほしい。(委員)

- ・一つ提案したい。サークル対象に行う研修は、親子遊びだけでなく、団体運営、人間関係、今後この新しい世界をどういふふう生きていくかをテーマにした研修をしてほしい。(委員)

(4) 行政での取り組み

- ・現状把握が大事である。そういう意味で、前回の提言の中の12ページに出した青少年のインターネットリテラシー指標を挙げた。平成30年版を見たが数値的には変わらない。可視化、見える化。この能力があり、この能力が足りないという実態把握からしてほしい。個々の身の回りの現象だけでは、あり過ぎて根本的な解決にはならない。本当に現状はどうかをシビアな目で見ることが必要である。例えば、提言の5ページ、兵庫県版が掲載されているが西宮版も確か途中であったと思う。毎年やっている学力調査の項目であるのに、なぜか兵庫県版に変わってしまったのか？平成25年で小学校の6年生で4時間以上やっている子が結構いる。3.3%いる。中学生では9.6%やっている。西宮の当時、こういう実態が毎年出ているはずである。こういうことを行政として、きちっと捉まえてほしい。各部署がしていることを繋いで何か一つの道筋を作って、学校現場なり家庭を引っ張るという、そこまでが行政の務めだと思う。パンフレットを出すだけでなく、そのパンフレットをいかに家庭に届けるかまでやってほしい。視点が、やっていますという自分目線ではなく、育ちゆく青少年や、育てる親御さんの立場に立ってほしい。幼・小・中の計画的な研修を組むためには、やっぱり実態把握が必要である。そういう情報収集をいかに効率良く、行政がするかが、手腕の見せ所。

一つひとつの事業は、本当によくやっていただいていると思うが、長期的な展望をもって各関係機関の横のつながりを作ってほしいと思う。それが俗にいうマスタープランにつながっていく。このILASでも可視化がどうしても必要だと出ている。ILASの更なる展開。地域

における自立的な周知、啓発活動の展開、リテラシー向上に関する国際的な認知や推進と色々な法律はあるが、このあたりのことをするのが行政の本当の仕事と私自身は思う。例えば、5ページに全庁で消費者教育に取り組んでいると書かれているが、一人ひとりの家庭、生徒から見たら受けたことがないという子がどれだけ多いか。ほとんどの子が受けてない。子供目線、親目線に立ち、平等に色々なことを、機会を与える事が必要なので、実施する側は、計画的にしてほしい。予算を見ても、この行政の取り組みの中でイベント以外に予算はないのではないか。講演会などのイベントにお金を使うだけではなく、もう少し調査、研究、実態把握にももう少し重きを置いてほしい。(委員)

→照会文書が施策への反映状況ということで、網羅的に書いたが、実際相談の内容で実態把握できている。篠原嘉一さんの消費者月間記念講演会ではネット、携帯電話のマナーをテーマにしたが、具体的な内容であった。アンドロイドはこう、 아이폰はこうっていう形で、私もスマホを持ってきて設定を変えた。

相談の内容の中で、実際に保護者が携帯電話、スマホを使いこなせておらず、子供の方がずっと進んでいることで、起こったトラブルがある。親のクレジットカードを使ってゲーム課金をし、請求額が4、50万円あったのに、ウェブ請求を親が見ておらず引き落としができなかったためブラックリストに載っていることを知らず、ゴルフ場に行きカード提示したら、これは使えませんとプレイを拒否され、慌てて相談された。またオの、業者への相談は、実際に小学生が30万円以上のゲーム課金し、慌てて親子で相談に来られ、1回だけということであったが、請求先に真摯に反省文を書いて、30万円以上の請求を免除していただいたケースもある。イに記載の通り自ら学び、考え、行動するとあるが、一昔前は、失敗してそれを糧にして工夫して、今度は失敗しないようにしようということだったが、今の失敗は修復不可能な状態が多いので、啓発に力を入れていきたい。せっかく入った大学で、SNSでスマホで簡単な儲け話に釣られて自分も借金をし、同級生も巻き込み、大学に居づらくなって辞めたケースも2、3件聞いている。そういった意味でも、予防は非常に大事で、講演会に効果があるのは分かっている。小中学生、高校生であろうとご自分で経験しないとなかなかできないので親子共々、講演会は有効だと思うので拡げていきたい。(消費生活センター所長)

・講演会をしてほしいという要望ではない。一つの部署ができてないと言いたい訳ではない。誤解のないようお願いしたい。(委員)

・子供達、生徒に対して実態把握は非常に重要だと思うが、実態把握して先回りして適切に指導することは、不可能に近いと思う。各校に、かなり専門的に知識を持っている方を配置して、本当に子供たちがインターネットで何をしているのか、最近の新しいゲームにはどんなゲームがあるのかをある程度調査して掌握したうえで、指導ができるかどうか分からないが、対策を立て先回りして全部を管理するのは難しい。子供たちが本当に、どのぐらいの時間しているか、どんどん新しく出てくるアプリで、何をどんな風に使っているかということ。それが、良いとか悪いとかという問題以前に、やっぱり、それを掌握しないことには何もでき

ないんじゃないかと思う。

6. 閉会